

# 歯科医師・歯科医療従事者集団研修会

## 目的

かかりつけ歯科医として、障害者歯科医療を地域に普及させるために必要な知識を修得する

## 対象

歯科医師・歯科医療従事者（歯科衛生士・歯科技工士等）

## 年間テーマ

地域での障害者・高齢者歯科への対応  
より良い地域完結型の障害者歯科医療を目指すために

## 日程・カリキュラム

### 第1回：平成23年 4月17日（日）

10:00～12:00 ①歯の喪失による口腔内環境の変化が全身状態に及ぼす影響

神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座  
クラウンブリッジ補綴学分野

教授 木本 克彦

口腔疾患の重症化により歯の喪失や顎口腔機能低下など、口腔内環境の問題は身体健康保持、増進に及ぼす影響は大きい。そこで、補綴治療によって回復した咬合、咀嚼機能が、高次脳や全身状態へ及ぼす影響について学ぶ。

13:00～15:00 ②要介護、在宅患者への歯科治療時の注意点

日本大学歯学部歯科麻酔学教室

准教授 見崎 徹

居宅および施設入所者ともに要介護度が高くなると、通院が困難となり、訪問による歯科治療が必要となる。要介護高齢者の歯科治療を行うにあたっては有害事象を意識し、リスク評価が重要である。歯科治療時のストレスが身体にどのような影響を与えているのか、基本知識や全身管理の手法について学ぶ。

### 第2回：平成23年 5月22日（日）

10:00～12:00 ③小児における口腔外傷への対応

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
口腔機能発育学講座小児歯科学分野

助教 宮新 美智世

障害児は、特にてんかん発作による転倒により口腔の外傷を受傷する頻度が高く、急患対応することも少なくない。そこで、受傷時の応急処置や適切な対応法および治療経過について学ぶ。

13:00～15:00 ④口腔の機能・形態・発達からみた摂食・嚥下機能療法の実際

昭和大学歯学部 口腔衛生学教室

准教授 弘中 祥司

摂食機能を獲得する過程では形態と機能の因子は大きく、障害児においては顎顔面の形成異常、劣成長により調和が得られにくい。解剖学的な構造異常に対するアプローチとともに摂食機能の発達を促す支援について理解する。また、実際の指導方法を学ぶ。

### 第3回：平成23年 6月26日（日）

10:00～12:00 ⑤発達障害児の理解と支援

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科  
教授 榊原 洋一

発達障害児を理解するためには、人間の神経発達の知識が必要になる。精神遅滞を伴わない発達障害の中で、その頻度の高い注意欠陥多動性障害（ADHD）、広汎性発達障害の医学的治療の現状、知っておきたい基礎知識としてライフステージごとにみられる特徴への対処の仕方、日常生活における家庭や学校での具体的な支援方法について知り、理解を深める。

13:00～15:00 ⑥障害児の歯科場面における問題点とその対応

千葉県こども病院 歯科  
歯科部長 甲原 玄 秋

疾患特性や固体特性のある障害児に対し、歯科診療に適応するための種々の行動調整法があり、心理的、身体的負担の少ない歯科診療が望まれる。当科の診療環境の工夫や、汎用している行動変容療法、全身麻酔下治療のシステム等を示す。狭義にはラポールのとりにくい脳性麻痺、精神発達遅滞、自閉症などが障害者（児）として考えられるが、内科的疾患も障害者（児）と言える。そこで血液疾患や心疾患など内科的疾患患児の口腔に関する特性、治療上の問題点、その対応なども示す。

#### 会場・定員・受講料

会場：東京都立心身障害者口腔保健センター 8階 研修室

（東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ8階）

飯田橋駅下車徒歩2分（JR総武線：西口／地下鉄有楽町線・東西線・南北線、都営大江戸線：B2b出口）

定員：40名

受講料：無料

#### 受付期間

随時受け付けます。

#### 問い合わせおよび申し込み

東京都立心身障害者口腔保健センター 研修担当

TEL：03-3235-1141〔受付時間：月～金 9:00～17:00〕

URL：<http://www.tokyo-ohc.org/>